

京都外国語大学図書館「貴重書デジタルアーカイブ」 におけるユーザーインターフェイス設計

日本写真印刷株式会社 DS本部 NCP部 デザイングループ
井浦 英明

現在、インターネットの普及、ブロードバンドの発達により誰もが探したい情報を様々な検索エンジンを利用して、数多くのWEBページより即座に情報を取得したり、大容量の動画をストーリーミングで閲覧したりできるようになりました。そしてブログ・チャット等を使用し、ネット上でコミュニケーションを図ったりなどいまやインターネットは私たちの生活と切っても切り離せない密着型ツールとなっています。

また、ITの進歩は日進月歩であることはもちろん、それに伴いその技術で開発されたサービスを使う私たちユーザ側の目も肥え、利便性をますます追求するようになってきました。そのようなWEBサイトを制作する側にとって、その両方に着眼しサイト企画・制作そしてシステム開発をすることがWEB制作者に求められる知識・ノウハウになってきました。私自身もWEBサイトを構築する際に、どんなユーザがいつ、どのように使用するのか、そしてどんな目的を達成したいのかといった“ユーザ視点”でのサイト設計を常日頃から心がけるようにしています。

今回、京都外国語大学図書館の「貴重書デジタルアーカイブ」（昔の教科書の誌面等をWEB画面で閲覧するオリジナルビューアー）のWEBサイト制作をお手伝いさせて頂きました。その制作中で重点的に取り組んだポイントを簡単に紹介させて頂きます。

京都外国語大学図書館WEBサイトについて

「貴重書デジタルアーカイブ」を制作するにあたって、まず最初に京都外国語大学図書館のWEBサイトをコンテンツ面とデザイン面の2つの視点から分析しました。その結果コンテンツ面については、大学図書館サイトの機能として必要と

思われるメインコンテンツ：図書館サービス内容紹介、収蔵品検索（データベース）、ニュース・トピックスについてはきちんと掲載されており内容も充実していました。さらにその他お楽しみコンテンツとして「映画スクリプトの書誌データベース」、「世界の地理の旅行に関するデータベース」など独自の切り口のデータベースも用意されており、他の大学図書館サイトの中でもコンテンツの豊富さにおいては満足度の高い構成だと言えると思います。

また、デザイン面についても、貴大学のテーマカラーであるブルーをベースに清潔感のあるデザインテイストでまとまっていると思います。ただ、コンテンツ量がかなり多いため見易さ、使い易さという視点からはやや難があるように感じました。その点を踏まえて、今回制作する「貴重書デジタルアーカイブ」ビューアーでは基調カラーをベースに使い易さ（ユーザビリティ）を意識したデザイン設計にしました。

デジタルカメラによる撮影・画像データ加工について

通常デジタルアーカイブ撮影では高精細なデジタルカメラを使用し、誌面のディテールを精細に写し取り半永久的に残せるようデジタル化していきます。そのため画像1ファイルが数百メガバイト（MB）になり、ハンドリングするのに困難な大容量になってしまいます。

今回はWEBブラウザの画面での閲覧を目的としていましたので、デジタルアーカイブ用の超高精細なデジタルカメラを使用せず、最大拡大時の画面精度に的確に表示できる仕様用途に最適なデジタルカメラで撮影、画像入力しました。また、画面上でストレスなく表示できるよう、1枚の画像を分割してファイルを保持する工夫を施してい